

減災ニュース No.21

消防署のお勉強(その4) 和田三丁目東町会 減災プロジェクトチーム

長く続けてまいりましたが、消防のお勉強は今回で最終回です。

火災から身を守る 火事が起こった時、ボヤでおさまるか、全焼してしまうかは火災発生後の3～10分間で決まります。大声で叫び消防に連絡すると共に、近くに消火器があればすぐそれを使って下さい。消火器がない場合はやかんの水でもジュースや牛乳でも、とにかく水をかけることが重要です。座布団や衣類で炎を叩き、覆って空気の供給を断つ方法も効果的です。またてんぷら油の火災では水はかえって危険なので衣類やタオルなどで火を覆い、空気を断つようにして下さい。室内火災ではカーテンに飛び火させないことも重要です。火災が発生したら近くのカーテンはすぐ引きちぎって床に落とすようにして下さい。火災発生からの迅速な対応があなたの身を守ります。逃げ出す前には延焼防止のため、部屋のカーテンをすべて引きちぎること、出入口のドアや窓はしめ、鍵はかけないこと、をできれば実行して下さい。開口部をなくすことで、空気の供給を遅らせることができます。また鍵は消火活動の妨げとなります。

ビル火災やデパート火災にあったら ホテルやデパートでは火災発生を知っても身の回りでは特に変化がないことが多く、結果逃げ遅れてしまうことが多いのです。すぐ逃げる事が肝要です。ホテル宿泊時には非常口を確認しておく、下へ逃げる事、なども覚えておいてください。デパートでは店員の避難誘導に従えばよいのですが、誘導を受けられない時は「非常口ランプ」を目当てに逃げます。防火シャッター作動中はあわててその下はくぐらないこと。はさまってしまう事があります。シャッターの近くには潜り戸がありますのでそこから脱出できます。走らず、大声を出さないことも重要です。パニックのひきがねとなりますし、呼吸が激しくなると煙を吸い込みやすくなります。煙が充満してきたら腹ばいになって逃げる事。床近くには新鮮な空気があります。



消防博物館

消防博物館 消防の任務は消防組織法で定められておりますが、大別して「消火活動」「救助活動」「救急業務」「火災予防」の4点といえます。この火災予防の観点から東京消防庁では都民への防災体験、防災学習を目的として都内5か所に防災学習施設を設置しています(池袋、本所、立川の各防災館と四谷の消防博物館、東京臨海広域防災公園内のそなエリア)。消防博物館は他の防災館と異なって消防の歴史を主に展示しており、丸の内線四谷三丁目の駅から直接入館できます。地下鉄駅からつながる地下1階では、大正6年初めて導入された消防ポンプ車以降8台の消防車が展示されており迫力満点。また現代消防のコーナーでは、最新の装備や器材が展示されており、多様化する火災や災害(ビル高層化や大震災など)に応じて、化学機動隊、特別救助隊など、組織や設備も専門化していることが理解できます。子供だけでなく大人も勉強できる有意義な施設で、しかも無料!興味のある方は、一度ご家族で見学されてはいかがでしょうか。

◆ 消防博物館 3353-9119 丸ノ内線四谷三丁目駅2番出口